平成 27 年度第１回「お茶の京都実践者会議」結果概要

１　日　時：平成 27 年５月 14 日（木）　15 時 30 分～17 時 30 分
２　場　所：宇治茶会館　大ホール
３　出席者：別添のとおり
４　概　要
（１）あいさつ（岡西副知事）
・　今回、「推進会議」から「実践者会議」に名称変更。「お茶の京都」構想もまとまり、これからは構想を実行に移す段階。本日御出席の皆様には具体的に手足を動かしていただき、コミットメントをいただきながら進めていきたい。
・　先行する「海の京都」でも同様にコミットメントをいただきながらまちづくりを推進。「海の京都」は観光・交流が中心であり、文化の側面が強い「お茶の京都」とは必ずしも同じではないが、「海の京都」の取組を御覧いただければ一定イメージはできると思う。イメージを共有いただいた上で、皆様にはぜひとも実践いただきたい。

（２）「お茶の京都構想」（最終案）の説明（事務局）

（３）構想推進に向けた取組について
①アドバイザーの配置と活動内容について（内田亜由美氏（じゃらんリサーチセンター））

＜岡西副知事＞
・　行政が主体的に進めてしまうと、行政の自己満足に終わる。一方、事業者任せになると、茶業界や観光業界でバラバラになる。ワークショップを通じて概念を共有し、行政、商店街、事業者等がそれぞれ何をやるのかを落とし込んでいくプロセスが重要
・「海の京都」でもうまくいった地域とそうでない地域とがあり、ハードルは高いが、目標を共有し、みんなが一つの土台に立って取り組むことにより、持続性のあるまちづくりにつながる。

②「『日本茶 800 年の歴史散歩』～京都・山城」の日本遺産認定について（本田企画理事）
・　このストーリーは世界遺産暫定リスト入りに向けた提案をベースに作成。初年度の認定に当たり、構成資産は文化財を中心とする旨の縛りがあったため、関係各位にはご迷惑を掛けたかもしれない。お詫び申し上げる。
・先日、文化庁担当課長を訪ねた際、認定 18 件の中で「日本茶 800 年の～」は最高評価との話。有識者による選定委員会でも最高評価とのこと。今後はソフト事業を中心に国の財政支援が受けられるため、「お茶の京都」にも活用したい。また、構成資産はストーリーと関連するものであれば追加可能とのことであり、さらにブラッシュアップしていきたい。

（４）－１　「お茶の京都」実現に向けた各地域での取組について
※　→は岡西副知事、本田企画理事、今井理事のコメント

＜実践者会議メンバー＞
・　宇治市では現在、15 店舗の免税店ができており、外国人観光客からの評価も高い。お土産として宇治茶を購入される方も多い。昨年のインバウンド消費が２兆円。韓国、台湾、中国、香港からの観光客が１千万人を占め、特に中華圏の方は日本の茶道文化、抹茶スイーツ等に関心が高く、70%以上がリピーター。春節、国慶節など年間を通じて来客もあるため、免税一括カウンターを商店街や道の駅に整備してはどうか。宇治市では、酒、飲料、菓子、お茶等が免税対象となったが、客単価は国内観光客の３～５倍、金額としては８千～１万円。いわゆる“爆買い”で 10～20 万円分購入する観光客もいる。外国語版パンフレットやマップ

に免税店の位置を示し、カーナビでも表示するなど、免税店を周知いただきたい。
・　海外観光客へのおもてなしを充実するため、Wi-fi を整備いただきたい。府が推進する「Japan Free Wi-fi KYOTO」を活用したい。日本遺産認定も大変喜ばしく、この機に合わせて、ぜひ Wi-fi を充実いただきたいと要望する。

→　京都府では、国と連携し、全国に先駆けて共通認証前画面（共通 SSID）方式による「Japan Free Wi-fi KYOTO」を平成 26 年３月から運用開始している。
　昨年度に引き続き、平成 27 年度も府の補助制度活用による観光案内所、観光施設等への設置を推進していきたい。

＜実践者会議メンバー＞
・　「お茶の京都」のターゲットイヤーは平成 29 年度であり、観光コースの実践トライアルを提案。昨年度の第１回推進会議で紹介したが、全国 514 の商工会議所による観光大会が平成 28 年に京都市で開催されるため、この場を「お茶の京都」をＰＲする機会としてはどうか。京都商工会議所でも、２日目のエクスカーションに海・森・お茶の京都を巡る観光コースを検討中。参加者数は現時点で未定だが、お茶への関心は深いと思う。
・　もう一つの提案は、土産品づくり。「お茶の京都」のロゴマークができたので、しっかりと特徴ある品を選定した上で活用いただきたい。

＜実践者会議メンバー＞
・　八幡市には「浜茶」という景観の良い場所が残っている。景観の良さを地元の人たちと分ち合うこと、地元の人たちが地元の良さを発見することが「お茶の京都」の原点。もう一度足元を見直し、「お茶の京都」をどう活用して展開していけるか、様々な組織と一緒に一つひとつ検討していきたい。
・急須で淹れたお茶は飲むとおいしいが、ついペットボトルのお茶に行きがち。おいしいお茶を飲んでもらおうと、先日、生涯学習センターでの研修の場で振る舞い、大変喜ばれた。地元のお茶に触れてもらう機会を増やす活動を地域とともに進めたい。

＜実践者会議メンバー＞
・　弊社では木津川市とタイアップした取組を推進。上狛の茶問屋街の近くでは、ハイタッチ・リサーチパークから上狛まで回遊するサイクリングコースの拠点、サイクリングの“道の駅”をめざす取組が進められている。今後、どのような改善点があるのかを一緒に探り、完成に近づけていきたい。夢は「ツール・ド・お茶」「ツール・ド・京都」。「ツール・ド・フランス」はフランス全体をうまく紹介できるような仕掛けとなっており、ドローンなども使って山城地域をうまく紹介できる良い取組にできればと考える。
・　弊社としては、改めて“ティータイム”の習慣を広めようと取り組んでおり、世界に向けた発信も模索中。皆様から御助言いただきたい。

＜実践者会議メンバー＞
・　お茶の景観などが日本遺産に認定される一方で、「お茶の京都」には、久御山町のように、日本遺産の関係エリアでない地域も含まれている。「お茶の京都」構想では「交流エリアの創出」として拠点整備が考えられているが、整備に向けて住民の意向を聞く中で、「お茶の京都」が住民に十分に認知されていないと感じており、啓発が重要。
・　久御山町では、まちの駅クロスピアくみやまを拠点に、直売所で山城地域全体のお茶を販売しており、今後も充実させていきたい。町も「宇治茶ムリエ」事業を開催する意向と聞いており、協力していきたい。

＜実践者会議メンバー＞
・　日本遺産認定は喜ばしい。煎茶発祥の地として永谷宗円生家を発信していきたいという思いを強く持っている。今もあらゆる地域から訪問客が来ており、今後一層広めていきたい。

・　これからアドバイザーや府の助言を受けながら、発祥の地にふさわしい地域づくりを進めたい。

＜実践者会議メンバー＞
・　かつて笠置町も小規模ながらお茶を生産していたが、最近は産地としての位置付けはない。産地である南山城村､和束町に隣接する笠置町としては宿泊施設としての役割を果たしたい。また、各産地と等間隔に位置しており、どこのお茶も扱えるので、お茶を楽しむ場としての役割もあると考える。
・　南山城地域へのアクセスとして縦貫自動車道や京奈和自動車道のほかに名阪国道もある。伊勢湾岸自動車道が開通以来、静岡県の浜名湖付近からの日帰りバスが増加。名阪国道の五月橋インターチェンジから月ヶ瀬を通り、お茶の産地を巡るルートがあり、休日にはビッグバイクがツーリングに来たり、オープンカーのチームが走ったりしている。年齢層は若干高いが、こうした人たちを南山城地域にさらに引き込むのも一つの手。
・茶香服の発祥は南北朝時代だが、後醍醐天皇と笠置山との縁は深い。

＜実践者会議メンバー＞
・　けいはんな記念公園は年間 60 万人が利用｡学研都市の文化交流拠点としてつくられており、世界からお客様を迎えるため、また、地域住民のため、日本文化をテーマにお客様が和める公園となっている｡平安建都 1200 年を記念して､造園界が総力を挙げてつくった庭園もある。
・　精華町にはお茶の景観がないため、地域活性化のアイデアとしてスイーツを挙げている。開園 20 周年を記念して、“60 万人を活かしてスイーツを売りまくれ”と公園でスイーツを販売したが、無料の振る舞いは一瞬で完売。有料は残念ながら不振。ただ、こうした実験的な取組をどんどん進めないとわからないことも多い。これからも挑戦していきたい。
・　奈良や大阪に府南部の特産品をＰＲする意味でも良いきっかけ。日本庭園を活用してお茶のマーケットなどを開催してはどうか。「和束茶週間（月間）」というイメージでアンテナショップを出してもらう。皆様には発表の場として公園を活用いただきたい。
・　年間 150 回のイベントがあり、思いついたらすぐやる、という姿勢で取り組んでいる。失敗も多いが、思いつきがうまくいく例も多く、フットワーク軽く挑戦することが重要。７月以降のイベントもお茶販売の場として活用いただきたい。

＜実践者会議メンバー＞
・　自転車なら「お茶の京都」の拠点を広域に回ることができる。回遊手段としての自転車。しっかり走るサイクリストにとって、「お茶の京都」エリアを一日で回るのは苦痛ではない。それ以外の一般の方が自転車で拠点を回るには、何らかのイベントを入れる必要があるが、乗り捨てのレンタサイクルなど検討してはどうか。鉄道に自転車を持ち込めるサイクルトレインの検討もすれば良い。
・　「海の京都」の「たんたんロングライド」や「森の京都」の「京都美山サイクルグリーンツアー」と連携したグルメライド、ロードバイクレースやマウンテンバイクレースなどとの連携も検討してはどうか。また、自転車を使ったオリエンテーリング「ちゃりろげ」もある。その他、拠点を回るオリエンテーリングの大会としてはフォトロゲやトレイルランニングなどもあり、「お茶の京都」にスポーツを絡めた取組が可能。
・　ヨーロッパではシクロツーリズムが確立されているが、日本では自転車を使った旅行会社はうちだけ。インバウンドの観光客は“体験型”を好む。普通のツアーでは回れない奥の地域を自転車で見てもらう取組はあると思う。山城は非常に面白い地域だが、拠点にロードバイクを停められる駐輪場がない。「森の京都」の美山には駐輪場が整備されてきたが、この地域でも同様に整備されれば、サイクリストが近づいてくる。

＜実践者会議メンバー＞
・　デザインの観点から地域活性化に役立てればと考えている。ロゴマークを活用し 12 市町村の魅力をつないでいただきたい。「海の京都」でもバスや船、ケーブルカーや「たんたんロ

ングライド」のバナーなどにロゴマークを活用。全体で統一したイメージを持って取り組むことで、各市町村単位でなく地域全体として「お茶の京都」で取り組める。一住民として、皆さんにはセンスあるまちづくりをしていただきたい。

・　先の連休中、お茶漬けを給食にするというニュースを見た。こうした取組で子どもたちにお茶が普及すると思うが、プロダクトデザインの観点からはお茶周辺製品が気になる。お茶をちゃんとした器で飲ませることが重要。伝統を大事にしつつ、若い人にも受け入れられ、遊び心もあるような器について、意見を出していきたい。

＜実践者会議メンバー＞

・　チラシにある「山城のたから授業」は、山城管内すべての学校で採用いただきたいと考えているもの。ビジネスへの関心を掘り起こし、将来の消費者である子どもたちを育てる事業。

・　授業では、木津川、宇治川と山に囲まれた「自然遺産」、最先端の技術を誇る「学研都市」、「京野菜」、恭仁京や長岡京、古墳などの「歴史遺産」、そして「宇治茶」の５つの“たから”についてそれぞれブースを設け、伝道師（俳優）がその魅力を売り込む。３人１組に分かれた子どもたちのグループは各ブースを回り、「どの宝を一押しにするか」と意見交換するが、最後に「山城にしかない宝」として宇治茶を出し、別室で「お茶いれ Movie」を見せながらみんなでお茶を淹れ、飲む。昨年、宇治田原小学校でのアンケートでは、「宇治茶の良さが分かったか」「急須で飲む楽しさが分かったか」等の設問について 90%超が「はい」と回答。「授業のことを家で話したか」との設問には２人を除く全員が「はい」と回答。その他、「宇治茶が好きになった」「山城の宝が分かり誇らしい」「お茶をまた淹れたい」等の感想があり、先生からも高評価。授業を通じた取組は、すべての家庭に関わることが利点。多くの子どもが１～２時間の授業で山城に生きる誇り、宇治茶への関心など強烈な印象を持てる。宇治市でもプロモーションし、年内に３校で取り組む予定。順次拡大していきたい。

＜実践者会議メンバー＞

・　前回会議で、けいはんな記念公園のイベントや日本庭園の存在を初めて知った。行政もいろいろと良いものを出しているが、意外に知られていない。冊子などの場合、どこかへもらいに行ったり、購入したりしなければならない。

・　舞妓の茶本舗ではゲームと提携したところ、一時は驚くほどのお客様が来た。アプリを使うことで山城地域に来てもらえるようにならないかという提案資料を配付。アプリであれば情報をすぐ修正でき、けいはんな記念公園のイベント情報などもすぐ掲載できる。また、アプリならではの仕掛けとして、例えば、城陽・井手のポイント７ヶ所を回ると「城陽・井手王」といった称号が与えられる、ということも可能。実際に行ってみると良いところは多く、ネットで書いてもらえばさらに広がる。そうした動機づけとしてアプリは面白いのでは。

・　来年の「ツアー・オブ・ジャパン」には３万人ほど人出があると聞く。「お茶の京都」を何とかアピールできないかと思う。

＜実践者会議メンバー＞

・　「お茶の京都」の情報発信として、駅に設置するパンフレットの作成やポスター展開、デジタルサイネージなどを実施しており、そうした部分で引き続き協力できればと考える。

・　また、この会議で山城地域の魅力ある素材を御紹介いただいているので、北陸地方や中国地方などの成功事例を紹介し、素材開発の部分で力になれればと思う。

＜実践者会議メンバー＞

・　京都で定期観光バス事業を実施。どなたでも、その日に思いつけば乗れる乗り合いバス。東京の「はとバス」と同じようなもの。京都市内のコースが大部分だが、最近、郊外のコースも開始。「お茶の京都」に関しては、京都駅を出発し「お茶の京都」のエリアを巡るコースを検討したい。地域の路線バス事業者とも協力し、和束や宇治に関係するコースに取り組みたい。

＜実践者会議メンバー＞
・　世界遺産のプラットフォームに携わっており、宇治田原町湯屋谷出身。
・　これまで議論してきた構想と本日（アドバイザーから）提案されたビジョンとにずれ。ビジョンでは「京都からお茶のある文化を復活させる」との提案だが、これまでの構想の議論では、お茶を産業としてしっかりしていくとか、地域の住民が理解し、誇りを持つという話だったと理解。ターゲットイヤーに、どこを目標に置くのかを考えるべき。
・　山城地域では人口が減少。定住人口の増が大きな課題だが、構想を見る限りその視点が見えない。「お茶の京都」が、お茶産業の活性化を目的にしているのであればそれで良いが、府・市町村合わせた全体の施策の中でどう位置づけられるのか、共有すべき。
・　山城地域は観光面でも魅力的な地域だが、住民も地元の良さに気づいていない。「ここで子育てしよう」と思えるよう、「お茶の京都」は交流人口の増加に向けて展開される取組に。
・　世界遺産のプラットフォームや「宇治茶かおり回廊」のサイン関係でもワークショップを今後開くと聞く。重なる部分は一緒にやるとか、地域特性に応じ地域によって重点的に入るとかする方が良い。地域の側は一つ。行政関係者は横のつながりをしっかり持つべき。
・　地域力再生の取組として「ちーびず」や「マルシェ」などが運用されており、「お茶の京都」はそうした今までの取組を活かせるものにしてほしい。また、お金の面だけでなく、ＱＯＬをいかに向上させられるかも大事。「小さな拠点」などでの取組も大事にしてほしい。

→　アドバイザーの提出資料は業者選定の際のプレゼン資料であり､アドバイザーからの提案。「お茶の京都」で進めていくのは、あくまで「お茶の京都」構想である。

＜実践者会議メンバー＞
・　名称を変えられ、いよいよ実践の段階に入った。本学は南部に拠点を置く唯一の大学であり、文科省から地域に貢献する大学として認定もいただいており、若い世代を支える大学としての役割があると考える。また、世界遺産プラットフォームでも様々な取組をしており、配付資料で紹介。また、私自身、茶業会議所の理事もしており、様々な立場の人をつなぐ仕組みづくりのお手伝いする役割があると考える。
・　「宇治茶かおり回廊」や宇治市を中心とする観光振興、文化的景観のまちづくりなどで取り組んできたことが「お茶の京都」を通して良い形で面化できると期待。例えば、学生プロジェクトとして「親子で楽しむ宇治茶の日」でスタンプラリーを実施。宇治市内だけでなく、関西圏や東京、さらに遠方からの観光客も多い。消費スタイルの回復にもお茶屋さんと協力して取り組んでいるが、取組当初から「山城地域全体でやりたい」との思い。「お茶の京都」でアプリが開発されたり、地図ができたりすることで全面展開すれば、800 年を飲み尽くす「お茶の京都」巡りが可能になる。各セクターの方に入ってもらうことで継続性も出る。
・　３年前から、全国でお茶づくりに携わる学生に自分たちの地域のお茶を紹介してもらう取組を実施。宇治茶という茶の本場から声を掛け、聖地としての役割を果たすことで、次の世代への訴求力を高められる。交流人口・定住人口の話があるが、交流人口が増えれば若者の活動域が増え、ネットワークが創出されて定住人口が増える。
・　世界遺産登録の取組のうち７頁の「宇治茶まる旅」では、地域の方によるワークショップ形式で「何があれば良いか」を検討。まずはツアーをつくることで動機づけする取組であり、うまくインキュベートして次へつなげてほしい。ｃｏｃｏｎ烏丸での取組は、ツアーに来てもらうためにはまず知ってもらう必要があるということで、マルシェと組み合わせて開催したが、非常に多くの方にお越しいただき、地元の方も手ごたえを感じてもらった。これらプラットフォームの取組は府本庁の農政課や振興局と連携を密にして進めており、今後これらを「お茶の京都」で吸収するのか、別の展開があるのかは分からないが、進めていきたい。
・　観光面では、外向きの情報発信は一市町村ではできないので、良い意味で府－市町村連携をしてもらうとか、奈良、宇治、京都をつなぐＪＲとの連携も重要。
・　茶器のデザインの話があったが、大切なこと。宇治市で「宇治茶の普及とおもてなしの心の醸成に関する条例」が制定されたが、お茶で乾杯するとなると一度にお茶を淹れるのは大変。お洒落な容器を考えていただきたい。

（４）－２　意見交換

＜岡西副知事＞

・　世界遺産プラットフォームでの取組は皆さんご存じか。こうした情報を皆でしっかり共有しなければならない。とても良い取組だと思うが、全体としては事業者、学生などどこまで拡げていくのか。「お茶の京都」で事業者も含め、幅広くミックスさせていきたい。

＜実践者会議メンバー＞

・　世界遺産プラットフォームについては、振興局や本庁も地域のつながりを重視しており、各市町村からも出席いただいて情報共有。茶匠などを含めた幅広いセクターでの情報共有のためにつくられたプラットフォーム。「お茶の京都」の会議が立ち上がるまでは唯一の情報共有の場。本日お集まりの方にはメンバー外の方もあり、情報提供した。

＜実践者会議メンバー＞

・　これから人口が減少していく中、地域で職場を見つけ、自立していく道を見つけなければならない。商売がうまくいく、産業が育つという切り口も大事だが、地域で子育てができ、お年寄りが安心に暮らせるという環境が大事。「お茶の京都」の議論の中で、子育てのための基盤づくりの話をどれだけ絡められるか。子どもが誇りを持って働く父親を見る、地域の誇りを取り戻す、という議論が重要。

＜京都府企画理事付　今井理事＞

・　子育ての基盤づくりなどは地方創生の取組で検討中だが、「お茶の京都」の取組とも十分連携させていきたい。

＜実践者会議メンバー＞

・　「日本茶」「宇治茶」の概念を明確にする必要がある。「宇治茶」が世界に広まらない限り世界からここに人は来ない。「日本茶」ではなく「宇治茶」が世界遺産に認定されることが重要。日本遺産のテーマは「日本茶」だが、「宇治茶」をどうブランディングしていくのか、構想の中にしっかり位置づけるべき。プロモーションとしては、「宇治茶」のイメージがいたるところで先行して皆さんの視野に入るようにしなければならない。

・　「ティー」と「チャ」の文化の違いについて。北方では「チ」、南方では「テ」と呼ばれていたものが、西へ「テ」が拡がり「ティー」に、東へ「チ」が拡がり「チャ」へ。「チ」が拡がった地域で「ティー」を使っても良いものか。位置づけを明確にし、しっかりとブランディングすべき。

＜京都府企画理事付　今井理事＞

・　構想の５頁に「『宇治茶』ブランドの強化」について記載。しっかりと取り組んでいく。

・　「日本茶」と「宇治茶」の使い分けについて、我々としては「日本茶」の代表的なものが「宇治茶」である、という認識で区別している。

＜岡西副知事＞

・　結論としては、「宇治茶」が重要。

＜京都府企画理事付　今井理事＞

・　今後、地域でしっかり議論し、構想を実践につなげていきたい。各分野の専門家など様々な方に入っていただきたく、人選について御提案いただきたい。

以上